

2023年度 庶務報告

〔1〕 会員異動

2023年度末における会員総数は7,611名である。

・内訳：正会員7,268名、看護師会員11名、特別会員34名、学生会員32名、賛助会員162名、名誉会員104名。

・資格保有者：医師6,351名、歯科医師67名、薬剤師652名、鍼灸師444名。

2023年度中の新入会員は278名、退会者は431名であった。

〔2〕 会議

2023年度における会議は次のとおり行われた。

理事会 9回（内書面審議2回）

社員総会 1回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

〔3〕 各支部との交流

北海道支部会（ハイブリッド開催）

2023年10月15日（日）

並木隆雄理事講演

東北支部会（Web開催）

2023年10月29日（日）

関東甲信越支部会（会場開催・オン
デマンド配信）

2023年10月29日（日）

三谷和男会長講演

貝沼茂三郎理事講演

東海支部会（ハイブリッド開催）

2023年11月19日（日）

北陸支部会（会場開催）

2023年10月15日（日）

関西支部会（ハイブリッド開催）

2023年10月22日（日）

中四国支部会（Web開催）

2023年10月29日（日）

山岡傳一郎理事講演

九州支部会（会場開催）

2023年11月26日（日）

貝沼茂三郎理事講演

鍋島茂樹理事講演

2023年度 事業報告

機関誌発行事業

〔1〕 編集委員会（担当理事：高山真、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：植田圭吾）

1. 学会誌を下記の通り発行した。

第74巻別冊号 2023年4月

第74巻第2号 2023年4月

第74巻第3号 2023年7月

第74巻第4号 2023年10月

第75巻第1号 2024年1月

2. 『TRADITIONAL & KAMPO MEDICINE』を下記の通り発行した。

Volume10 Issue1 2023 2023年4月

Volume10 Issue2 2023 2023年8月

Volume10 Issue3 2023 2023年12月

3. 2023年6月2日、7月13日、8月1日、8月27日、9月25日、10月9日、11月30日、12月11

日、2024年1月15日、2月29日、の計10回委員会（メール会議及びTKM Mtgを含む）を開催した。

4. 日本東洋医学雑誌の電子化と紙面による運用の集約化を進めた。
5. TKMのTop Cited Articlesをもとに、Most Citation Awardを選定、Certificationを発行した。グラフィカルアブストラクトの導入、学会員向けのメールマガジンでTKM掲載論文の紹介（日本語アブストラクト）掲載、Article Processing Charge支援論文選定と支援を行った。

調査研究事業

〔1〕健康保険担当委員会（担当理事：金倉洋一、副担当理事：玉嶋貞宏、委員長：大谷知穂）

1. 委員会は開催されなかった。
2. 第73回日本東洋医学会総会で政策提言委員会と合同シンポジウムを行った。
3. 第74回日本東洋医学会総会で政策提言委員会と合同シンポジウムを計画した。
4. 会長、三役、日本臨床漢方医学会理事と共に、自民党漢方議連新会長の田村憲久議員と面談し、保険診療における漢方の必要性を確認した。

〔2〕学術教育委員会（担当理事：佐藤寿一、副担当理事：高山真、委員長：網谷真理恵）

1. 2023年5月9日、9月28日、2024年3月5日の計3回委員会を開催した。
- 2.

1) 情報発信事業

① 他学会との共同企画について

(1) 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2023/5/13/16:00～17:30）

タイトル：東洋医学(漢方・鍼灸)の疑問点にお答えします！

座長：佐藤寿一、樫尾明彦

演者：網谷真理恵、野上達也、吉永亮、樫尾明彦、鈴木雅雄、寺澤佳洋

(2) 第119回日本精神神経学会学術総会（2023/6/23/13:15～15:15）

タイトル：精神科臨床の幅を広げるために知っておきたい漢方薬～漢方専門医でなくても上手に漢方薬を使うコツ

司会：神庭重信、堀口淳

コーディネーター：山田和男、久永明人

演者：山寺博史、高橋晶、小野真吾、井口博登、辰巳礼奈

(3) 第64回日本心身医学会学術講演会（2023/7/1/9:00～10:30）

タイトル：心身症への漢方学的アプローチ

座長：野上達也、網谷真理恵

演者：佐藤浩子、野上達也、神應知道、網谷真理恵

(4) 第27回日本病院総合診療医学会学術総会（2023/8/26/13:20～14:50）

タイトル：麻黄湯から展開する「総合診療×漢方」—基礎研究から臨床まで—

座長：松田隆秀、中永土師明

演者：鍋島茂樹、吉永亮

(5) 第51回日本頭痛学会総会（2023/12/2/15:20-17:20）

タイトル：慢性頭痛に対する東洋医学の果たす役割

座長：松村明、山口智

演者：佐藤寿一、川村強、五野由佳理、井畑真太朗、黒木香行

2) 大学教育支援事業

① 第73回学術総会における企画について

(1) 第4回「東洋医学」研究会・サークル交流プログラム（2023/6/18/10:30～13:30）

活動報告7大学、交流会参加学生数39名

交流会参加学生に対して日本東洋医学会への入会および学生部会の立ち上げを呼び掛けた

(2) 日本漢方医学教育協議会との合同企画 (2023/6/17/16:00~18:00)

タイトル：モデル・コア・カリキュラム時代の漢方医学卒前教育

座長：佐藤寿一、高山真

シンポジスト：佐藤寿一、高山真、網谷真理恵、佐藤浩子、飯塚徳男

3) その他

① 医師国家試験への漢方に関する問題の出題要請について

全国の大学で漢方医学教育が必修化されており、医師国家試験に漢方に関する問題を出題していただくよう、文科省、厚労省に要望書を提出した。

② 若手部会の設立について

学術教育委員会の下部組織として、日本東洋医学会会員の若手医師を中心とする部会を設立した。

〔3〕 鍼灸学術委員会 (担当理事：山岡傳一郎、副担当理事：高山真、委員長：鈴木雅雄)

1. 2023年9月5日に委員会を開催した。
2. 第73回日本東洋医学会において、委員会報告を行った。
3. 今後の目標として、明堂経の復元、鍼灸治療に関するe-learningの構築、鍼灸のエビデンス構築を行うことを確認した。
4. 九鍼の使い方ビデオの作成を検討することとした。
5. 2023年3月12日に相談会を行った (担当理事：山岡傳一郎、委員長：鈴木雅雄)
6. 2025年開催の学術総会に向けて、鍼灸のメカニズムとエビデンスを中心としたシンポジウムを企画する予定。なかでも生理学に重点を置いて、鍼灸のメカニズムから臨床につながる内容にする。次年度(2024年度)は本委員会で検討を行っていく。

〔4〕 EBM委員会 (担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明)

1. 2023年6月17日、8月2日の計2回委員会及びメール会議を行った。
2. 漢方治療エビデンスレポートEKAT2022を公開。
3. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドラインKCPG2022を公開。
4. 「STORK」ウェブサイトへの説明資料の添付、JP18への更新とアーカイブ情報の整理。
5. 2024年学術総会でのシンポジウム(漢方ベストRCT)開催に向けた準備。4名の論文著者(シンポジスト)の選定と打診。選考プロセス資料の作成。
6. EBM委員会20周年記念論文のオープンアクセス化とウェブサイトへの掲載を含む、ウェブサイトのメンテナンス。

〔5〕 用語及び病名分類委員会 (担当理事：星野卓之、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦)

1. 2023年12月12日にメール審議にて委員会を開催し、当委員会の英文呼称案を取りまとめた。
2. 外部の各種委員会に出席した(2023年9月26日第26回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会、2024年1月15日日本医学会分科会用語委員会)
3. 日本診療情報管理学会関連の国際疾病分類(ICD)国内適用に関する各種会合に出席した(2023年9月14日第49回日本診療情報管理学会学術大会、厚労省ICD室訪問)
4. 日本東洋医学会・全日本鍼灸学会の会員サイトでICD-11伝統医学章の和訳を公開し、意見聴取を行った(継続中)
5. 2023年10月11日開催のWHO-FIC伝統医学リファレンスグループにオンライン出席し、ICD国内適用につき報告した。

〔6〕 漢方医学書籍編纂委員会 (担当理事：及川哲郎、委員長：鈴木達彦、副委員長：鈴木朋子)

1. 2023年4月21日、5月26日、7月21日、9月15日、10月20日、2024年1月26日、3月15日の計7回委員会を開催した。
2. 『Complete Kampo Medicine』出版に向け原稿作成を進めた。2023年12月にSpringer社との出版契約を締結した。

3. 『日英対照 漢方用語辞書 基本用語』の改訂作業を進めた。
 4. 『漢方医学大全』『日英対照 漢方用語辞書 基本用語』に関するパブリックコメント取得を行った。
- 〔7〕生薬原料委員会（担当理事：川添和義、副担当理事：伊藤美千穂、委員長：有田龍太郎）
1. 2023年5月15日、11月29日、2024年2月14日の計3回委員会を開催した。
 2. 第73回学術総会における委員会企画について、『生薬国産化の中長期 vision』をテーマに企画の具体的な内容について検討した。
 3. 今後の本委員会では、以下を柱として議論し、事業を推進することとした。
 - 1) 国産生薬について：
 - ① 必要性や実現可能性について、関連学会（日本生薬学会など）と連携を持ちながら議論を進めていく。
 - ② 栽培地の見学などを通して現状を確認し、学会誌などで報告する。
 - ③ 煎じ薬の有効性について発信する。
 - 2) 薬用植物・生薬の理解推進に向けて：
 - ② 東京生薬協会などとの協力で、東京都薬用植物園見学などの企画を立案する。
 - ③ 生薬や薬用植物に関する情報を会員に提供する機会を設ける。
 - 3) 他学会とのコラボレーションの推進：
 - ① 第74回学術総会では日本生薬学会とのコラボシンポジウムとして、『今、もう一度生薬を知る』をテーマに、甘草を題材として栽培、流通、研究、臨床の立場から議論を展開する。
 - ② 日本生薬学会の協力により、薬科大学などの薬用植物園見学、野外植物観察会などの企画を立案する。
 4. 生薬薬価の問題については、今後本委員会で議論せず、保険診療などの関係とともに学会全体としての議論にすることとした。

学術交流事業

- 〔1〕渉外委員会（担当理事：矢久保修嗣、副担当理事：伊藤美千穂、委員長：野上達也）
1. 2024年3月の理事会に於いて、渉外委員会・国際担当と渉外委員会・国内担当の2つの委員会を統合した。
 2. 旧渉外委員会・国際担当
 - ・ 2023年4月13日、2024年1月29日、3月13日、3月27日、3月28日の計5回委員会及びメール会議（内3回は渉外委員会として）を開催した。
 - ・ 第73回日本東洋医学会学術総会（2023年6月18日（日））において、本委員会の活動報告ならびに中国の現状に関する報告を行った（web開催）。
 - ・ 第73回日本東洋医学会学術総会（2023年6月18日（日））において、六味丸（六味地黄丸）に関する日韓学術交流シンポジウムを開催した。
 - ・ 2023年12月10日（日）にソウルCOEXで行われた、六味丸（六味地黄丸）に関する大韓韓医学会主催の2023韓日シンポジウムをサポートした（web開催）。
 3. 旧渉外委員会・国内担当
 - ・ 2023年11月14日、2024年3月13日、3月27日、3月28日の計4回委員会及びメール会議（内3回は渉外委員会として）を開催した。
 - ・ 漢方医学IT化対応事業
 - ① 漢方診療におけるIT化に関して、用語整備をするための方策や、漢方診断のフレームワークなどに関する検討を行った。
 - ② 証分類に関する実証実験を筑波大学と共同で実施し、漢方医学に関するプログラム医療機器の共同開発を推進。
 - ・ AMED研究支援事業
 - 国立研究開発法人日本医療研究開発機構の「統合医療」に係る医療の質向上・

科学的根拠収集研究事業」における「ICD-11伝統医学の病態－モジュール I の活用と、安全で有効な漢方治療実践のための基盤整備研究（代表研究者：野上達也）」の支援を行った。

- ・ 日本薬剤師研修センター研修関連事業
日本東洋医学会各支部が主催する研修会を日本薬剤師研修センターが認定する研修とするための支援を行った。

学術総会・支部事業等

〔1〕 第73回学術総会（会頭：栗山一道、準備委員長：田原英一）

1. 2023年6月16日（金）、17日（土）、18日（日）の3日間に亘り、栗山一道会頭のもと、学術総会を会場、ライブ配信及びオンデマンド配信にて開催した。会員・非会員・招待者の参加者は3,900名、市民公開講座の参加者は214名でした。

〔2〕 支部事業

1. 全国8つの支部において支部総会及び都道府県部会（学術講演会）を開催した。

認定事業

〔1〕 専門医制度委員会（担当理事：貝沼茂三郎、副担当理事兼委員長：藤本誠、副委員長：栗山一道）

1. 2023年4月19日、5月2日、6月14日、8月20日、10月28日、2024年1月28日、3月10日の計7回委員会及びメール会議を開催した。
2. 2023年度専門医試験を11月19日に行い、第一次審査免除者2名を含む69名が受験し、56名を合格とした。
3. 2023年度認定医試験を11月19日に行い、2名が受験し2名を合格とした。
4. 漢方専門医更新対象者278名の内、更新要件を満たす250名の更新を認可した。
5. 認定医更新対象者33名の内、更新要件を満たす20名の更新を認可した。
6. 研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。
7. 各地区において教育事業を開催した。
8. 第73回学術総会において指導医講習会、専攻医のための説明会、医療倫理・医療安全講習会を実施した。
9. eラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。
10. 専門医通信を2回発行した。
11. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
12. 一般社団法人日本専門医機構へのサブスペシャリティ領域としての申請に向けて、研修プログラムを整備して研修システムの充実を図り、研修施設の整備・充実を図った。
13. 専攻医登録のシステム化を進めた。
14. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。

管理事業

〔1〕 運営委員会（企画担当理事：小菅孝明、財務担当理事：山崎武俊、IT部門担当理事：福岡正平、委員長：山田和男）

1. 2023年5月1日、8月25日、11月20日、2024年2月5日、3月18日の計5回の委員会を開催した。
2. 2024年度事業計画及び予算を纏め、理事会に上程した。
3. 2023年度事業報告及び決算を纏める作業を行った。
4. 2023年度補正予算案を纏め、理事会に上程した。
5. インボイス制度への対応を纏め、理事会に上程した。
6. 第75回定時社員総会に推挙する名誉会員について審議し、理事会に上程した。

7. 第75回定時社員総会の開催について審議し、理事会に上程した。
 8. 定款の一部改定案（委員会に関する細則及びその別表の一部改定案、会費の免除に関する内規の一部改定案）について審議し、理事会に上程した。
 9. 会員数減少対策について検討した。
 10. 会報及び学術総会抄録集のWEB化について審議し、理事会に上程した。
 11. manaableの継続利用、Zoomのプラン変更について審議し、理事会に上程した。
 12. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
 13. 理事会からの諮問事項について検討した。
 14. 各委員会の英語表記について検討し理事会に上程した。
 15. 激甚災害指定による会費免除について検討し理事会に上程した。（令和5年5月28日から7月20日までの豪雨及び暴風雨による災害、令和6年能登半島地震による災害）
 16. 第71回学術総会で放映した生薬ビデオの取扱いについて検討し、理事会に上程した。
- 〔2〕 広報委員会（担当理事兼委員長：田原英一）
1. 2023年10月4日、11月21日、2024年2月26日の計3回委員会を開催した。
 2. 学会ホームページのリニューアルに向け、アンケート調査を行い、アンケート調査の結果を元にリニューアル案を検討した。
- 〔3〕 倫理委員会（担当理事兼委員長：吉田麻美）
1. 2023年5月10日、10月2日、2024年3月22日の計3回委員会を開催した。
 2. 学術集会への演題応募における倫理手続きについて2025年開催の学術総会から採用できるように検討を継続している。
- 〔4〕 利益相反（COI）委員会（担当理事：佐野敬夫）
1. 委員会は開催されなかった。
 2. 委員のメンバーを模索していた。
- 〔5〕 コンプライアンス委員会（担当理事兼委員長：並木隆雄）
1. 2023年5月6日に委員会を開催した。
 - ・二重投稿（発表）問題の対応確認
 - ・会計問題の経過報告
 - ・不正が疑われる論文に対する再審議などが話し合われた。
 2. 上記以降、委員会で扱うべき案件はなく、委員会の開催はなかった。
- 〔6〕 医療安全委員会（担当理事：鍋島茂樹、委員長：地野充時）
1. 委員会は、開催されなかった。
 2. レセプトデータを使用した漢方薬ポリファーマシーに関する論文を日本東洋医学学会に投稿し、受理された。
- 〔7〕 政策提言委員会（担当理事兼委員長：玉嶋貞宏、副担当理事：金倉洋一）
1. 委員会は、開催されなかった。
 2. 「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会2023」で発表した。
 3. 第73回学術総会において、フレイルに対する漢方治療のエビデンス構築に向けてのシンポジウムを開催した。
 4. 第73回学術総会において、健康保険担当委員会と合同シンポジウムを開催した。
- 〔8〕 JLOM委員会（担当理事兼委員長：牧野利明、副担当理事：並木隆雄、副委員長：松本毅・河野徳明）
1. JLOMの活動（ISO/TC249およびTC215/JWG1、WG10）を理事会で報告した。
 2. 6月に福岡国際会場で開催された第73回日本東洋医学学会学術総会で、用語及び病名分類委員会と合同で、シンポジウムを行った。ISO/TC249における現状報告と、伝統医学を取り巻く国際情勢について議論した。
- 〔9〕 定期刊行物（担当理事：砂川正隆）
1. 会報を2023年4月、7月、10月、2024年1月の年4回発行した。

事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。